

Domaine Ponkotsu

新着ワイン情報

おやすみなさい 2021 (ロゼ泡)



藤稔という品種（ピオーネの品種改良、食用最高級品種）を2020年から仕込み始めた。一般的に生食用とされるブドウは、晩腐病リスクが高く、割れやすく、色々と四苦八苦している。藤稔をプレスした際には、特徴的なストロベリーの香りをはっきりと感じたが、瓶詰後にはいい塩梅に落ち着いた。また、2020年から大泉の甲州をブレンドしているが、品種の個性であるグレープフルーツ香に加えて、白い花のニュアンスを出したかったので2021年は試行的に甲州の収穫時期を遅らせてみた。最終的には、仕上がりはオリも少なくガス圧も

おおそコントロールでき納得のいく出来となった。

（ちょっと裏話）

「俺はいつになったら勝てるんだろう。」小佐手にあるピオーネを収穫しながらつい松岡氏から言葉が漏れる。食用品種の巨峰、ピオーネ、藤稔に関しては、生産量、質と共に思った通りになった年はいまだなく、毎年苦戦中だそうだ。2020年のピオーネが干し葡萄になった経験は克服し、2021年は干し葡萄が増える前にピオーネの収穫を行った。その結果収量は無事に前年の二倍となったが、それでも実際に予定していた収量の2/3程度だった。「俺はいつになったら勝てるんだろう。」の想いで、まだまだ松岡氏のチャレンジは続く。

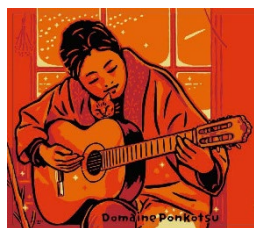


(写真①)プレス中のおやすみなさい

仕上がりはブラッドオレンジ色の中、小さな泡が細やかに立ち上がる。

繊細な香りからはアセロラや白桃、ほのかな八朔とメロンの香り。口中、淡くアールグレイとフレッシュチーズの香りが抜けたあと、こたつの温州みかんの様なコンパクトで優しい酸味が立ち、そしてタンニンがすぐに引き締める。

まどぎわ 2021 (醸し)



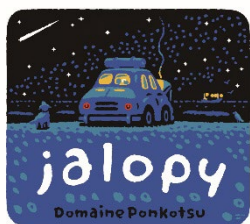
2021年の甲州は房が大きく平均的な甲州をよく実らせた。そんな甲州を可能な限りに表現する。2021年は、酸が残りやすい畑である一宮町千米寺の甲州を取り入れている。大きな岩が多く水捌けが良い地区の中でも、地下に水路があるためか、よく伸長し、豊産型の甲州が育つ。畑の場所は非常に狭い道を進んだところにあり、入り組んだ地形のために運搬車が横転したり、運搬車が棚の支線を切ったりと、事故が何かとあったが無事に収穫が終わった。

（ちょっと裏話）

千米寺の甲州は除梗破碎で短期醸し4日、大泉の良く熟したポテンシャルの高い甲州を千米寺の果汁に半分浸からせたオリジナル仕込みを行う。発酵期間は2ヶ月弱。

仕上がりは、明るい枇杷色。抜栓すぐの香りは落ち着きがあり、甲州種をそのまま食したようなフレッシュな香りに時間とともに皮などからくるスモーキーさ、キク科の葉から香るようなハーブの香りが第一印象。口中、香りはふんわりとレモンからポンカンのイメージになり、蜂蜜とほろ苦いオレンジピールが見え隠れする。味わいは収斂味のある酸味が引き締め、薄く引いた干し椎茸や舞茸のキノコに似た出汁の旨味が広がる。

ジャロピー 2021（醸し）



2021年のデラウェアは例年のデラウェアの品質と変わらないように収穫時期を待ったため、8月からのまとまった雨によって割れてしまった。特に内藤のデラウェアが割れて収量は20%減となった。そんな中、「収穫時に焦って選果するとハサミで手を切るから。」と収穫する前に割れたブドウを選果し、健全なブドウだけを収穫できるようにした。病気になる前に早く収穫してしまう農家が多い中、待って熟したぶどうを収穫したい想いで納得のいくデラウェアを収穫することができた！

Jalopyはデラウェアが主だが、実は年々シュナンブランの量も増えている。シュナンブランが少し入る事で、派手なアロマティックさが穏やかになっている。

（ちょっと裏話）

2021年の仕込みはいつもと変わった。なんとプレス機が突然故障してしまい、小佐手横落のデラウェアをジュースにする事が叶わず、マセレーションを行うことにした。その代わり内藤のデラウェアをジュースにする事にした。構成が変わった仕込みとなったが、本人曰く「いつも通りの質になった。」とのこと。

仕上がりは淡い琥珀色、柿色。赤みを少し帯びて輝きをもつ。すでに香り量が多く香りがグラスから漏れる。ジャスミンと白桃がはっと香り、クチナシや木蓮の花がイメージとしてあり、口中はアップルミントからスイセンへと香る。時折、タイムの香りがちらつく。しっとりとした舌あたりがあり、広がった後にタンニンと澱からくる旨味が優しく乗る。デラウェアの皮由来のスモーキーな香りも出てくる。少し待てばじんわりと蠟梅の香りが余韻に続く。和を感じるアロマティックな香りはさらりとした味わいで単体でも美しいがカラスミなどの魚卵にも合った。

畑情報

甲州市勝沼町上岩崎 棚栽培

* 山田 : デラウェア

* 内藤 : デラウェア

* 下所面（しもしょめん）: 巨峰

甲州市勝沼町下岩崎 棚栽培 大泉: 甲州

甲州市勝沼町小佐手（おさで） 棚栽培

* 赤坂 : ピオーネ

* 横落 : デラウェア、巨峰、甲州

甲州市塩山藤木 垣根栽培 藤木 : メルロー、プチマンサン

甲州市塩山千野 垣根栽培 塩山千野（塩山高校前）: シュナンブラン、ヴィニフェラ多数

笛吹市一宮町千米寺（せんべいじ） 棚栽培 千米寺: 藤稔、甲州

山梨市水口 棚栽培 水口: デラウェア、シュナンブラン、ソーヴィニヨンブラン

ワインテージ情報 2021 山梨（峡東エリア）

2021 年の山梨峡東地域は、例年より体感的に雨が少なく、全国 1, 2 位を争う暑さではあるものの、毎年訪れる酷暑も少なく涼しい年と感じた。4 月から 7 月まで天候がよく、2020 年と比較しても降雨量が半分程度だったためにベトの病害が少なかった。新梢は 2020 年の天候不良に比べると健全に成長した。しかしながら、ヨトウガやミノガ(ミノムシ)の食害によって花芽が減少し、また 8 月以降のまとまった雨が、ヴィニフェラで部分的な割れを発生させ、減収した。

最終的には、自然な収量制限と健全な新梢伸長のおかげでよく熟したブドウを収穫できた。

栽培ブドウの状況

デラウェア

収穫時期を遅らせたことによって例年よりも割れがでて収量は落ちたが収穫前に前もって割れた葡萄を落とし、健全な葡萄を選果したので納得のいく葡萄の出来だった。

甲州

出来が良かった年。

巨峰、ピオーネ、藤稔

晩腐病により、予定収量の 2/3 の収量に。適格なタイミングで収穫できたがまだ質、量ともに納得のいく年はなくわからないことも多く、挑戦、研究中。

ヴィニフェラ

2020 年に比べると病害は少なく、納得いく出来だった。



（写真②）ポテンシャルの高い大泉の甲州